OUKA
The University of Osaka
Institutional Knowledge Archive

| | |
|---|---|
| Title | 関西地区研究データ管理人材育成コンソーシアム キックオフ・シンポジウム |
| Author(s) | 林, 和弘; 山地, 一禎; 甲斐, 尚人 他 |
| Citation | |
| Version Type | VoR |
| URL | https://doi.org/10.18910/105945 |
| rights | This article is licensed under a Creative Commons Attribution 4.0 International License. |
| Note | |

*The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA*

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka

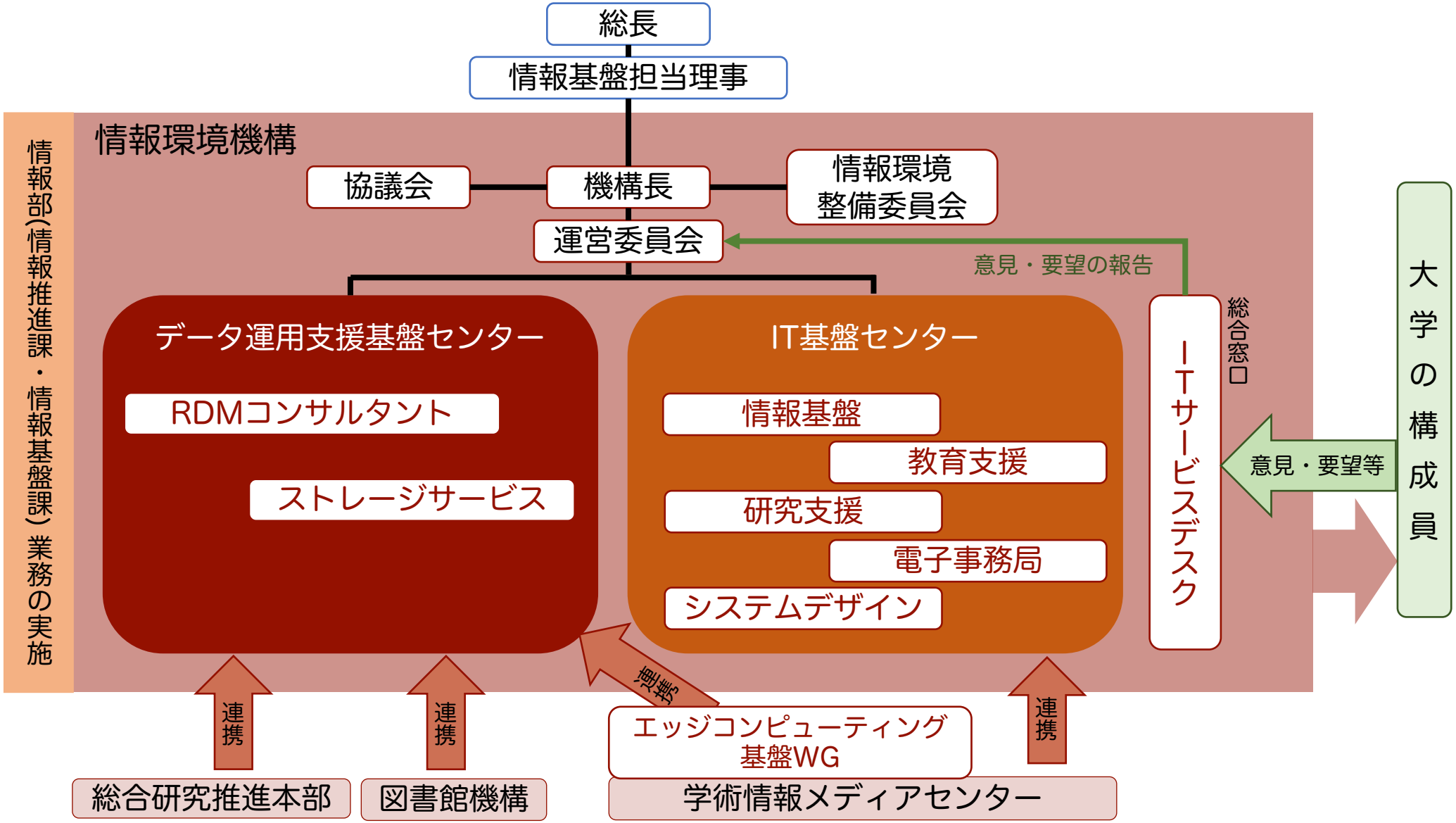
関西地区研究データ管理人材育成コンソーシアム
キックオフシンポジウム (2026/07/16)

# 京都大学の研究データ管理支援体制の現状

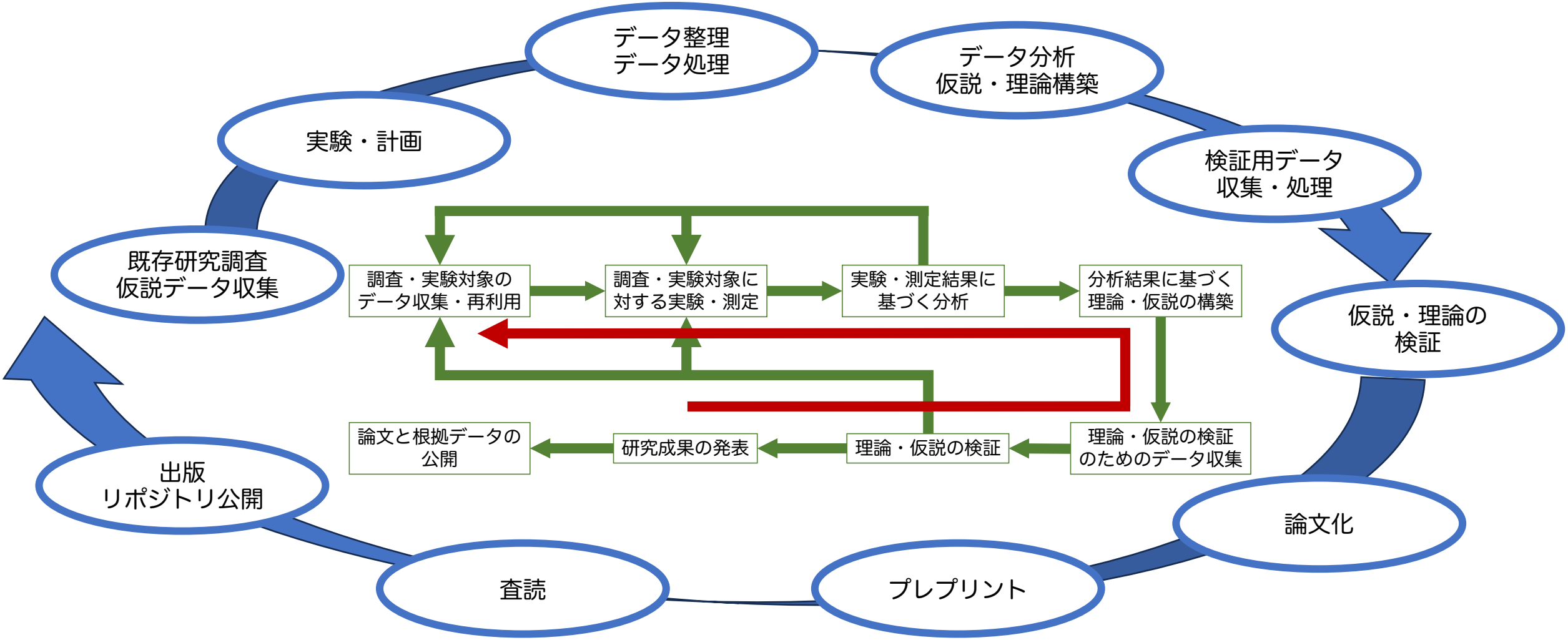
京都大学 情報環境機構 データ運用支援基盤センター
センター長・教授　渥美 紀寿

京都大学

# データ運用支援基盤センター (2024/01設置)



# 研究サイクルと研究データのライフサイクル



# 研究者へのRDMに関するヒアリング

- 2023年度から約 30 名、複数部局 (工学、理学、医学、人文など)
- 保存場所:
  - 個人・研究室の NAS, サーバ, 外付け HDD、紙の実験ノート
  - 外部のクラウドサービス (Dropbox, Box, Notionなど)
- データ管理の取り組み
  - 研究室内・部局でのルール
  - 多くの研究者はあまりちゃんとはできていない
- 課題
  - 属人化による不明なデータ (説明粒度の違い、オリジナルデータがない)
  - バージョンの管理 (ファイル名によるバージョン管理など)
  - データの保存場所の維持

# RDM に関する規程・ポリシー

# RDM に関する研究現場からの動き

- 2015/09 – 2018/03
  - オープンサイエンスデータ推進ワークショップ (計5回)
    - ✓ 理学研究科主導で開始
    - ✓ 学内外の知見を集約
- 2017/11 – 2023/09
  - アカデミックデータ・イノベーションユニット (通称: 葛ユニット)
    - ✓ 本学の研究者の研究活動によって生み出される多様なアカデミックデータを適切に蓄積・共有・公開および長期保管するデータマネジメント環境の調査研究

# ポリシー策定のための組織整備

- 図書館内でのRDM支援活動 (2017～) + 葛ユニット
- ポリシー策定のための組織体制構築 (2019/10～)
  - 全学に関わることであり、特定の既存組織主導ではなく、全学で検討する組織が必要
- リサーチデータマネジメント専門部会、
  リサーチデータポリシー策定WGの設置 (2019年12月)
  - 全学委員会「研究者情報整備委員会」の下に設置

# 京都大学研究データ管理・公開ポリシー

2020/03/19

- 研究データ
  - 本学の研究活動の過程で研究者によって収集または生成された情報で
    デジタル・非デジタルを問わない
- 研究者の責務
  - 研究データを適切に管理・保存すること
  - 研究データの価値を守るため、それぞれの研究分野における法的および
    倫理的要件に従って研究データ管理を実施する
- 大学の責務
  - 研究者が研究データ管理を行う権利と責務を有していることを認める
  - 研究データを可能な限り社会に公開し、その利活用を促進する
  - 研究データ管理・公開を支援する環境を整える

京都大学 研究データ管理・公開ポリシー
https://www.kyoto-u.ac.jp/sites/default/files/embed/jaresearchresearch_policydocumentspolicy_20200619.pdf

# ポリシーの実効性を高めるための組織整備

- ポリシーに従って実施することが重要
- 研究データ管理・公開WG (2020/08～)
  - 2020年度：部局等における研究データ管理・公開に関する実施方針策定のためのガイドライン・ひな形の作成 (2021/03/15)
  - 2021年度：研究データ管理・公開を支援する学内体制の整備
    - ✓ 研究者情報整備委員会：全体の方針決定
    - ✓ RDM専門部会：研究者情報整備委員会の方針に基づき、具体化
    - ✓ 情報環境機構：必要なサービスを実現するための基盤整備
    - ✓ 附属図書館：オープンサイエンス・オープンアクセスのためのサービス提供
    - ✓ 学術支援室：研究データ管理計画の作成支援
    - ✓ 研究推進部：研究公正関連の支援
    - ✓ 総務部・産官学連携本部：知的財産権、個人情報関連
    - ✓ 総合博物館：非デジタル研究データの公開
    - ✓ 高等教育院：学生への啓発・教育

# RDM に関する支援体制

# RDM コンサルタントグループ

- 目的

  全学の研究成果のオープンアクセスと研究データの公開・管理に関して、研究者の研究ライフサイクルに沿った効果的な支援を行う

- ミッション
  - 学内研究者からの RDM に関する問い合わせ窓口
  - 部局、研究プロジェクト、研究者を対象とした RDM に関するヒアリング
  - 情報環境機構で展開する RDM 支援サービスの展開
  - 研究データ管理方法や RDM 支援手法の開発とベストプラクティスの共有
  - DMP 作成や OA に関する研究者への対応支援

- メンバー

  情報環境機構、情報部、附属図書館、総合研究推進本部

- 相談窓口：RDMサポートセンター

  URL: https://u.kyoto-u.jp/rdm-support

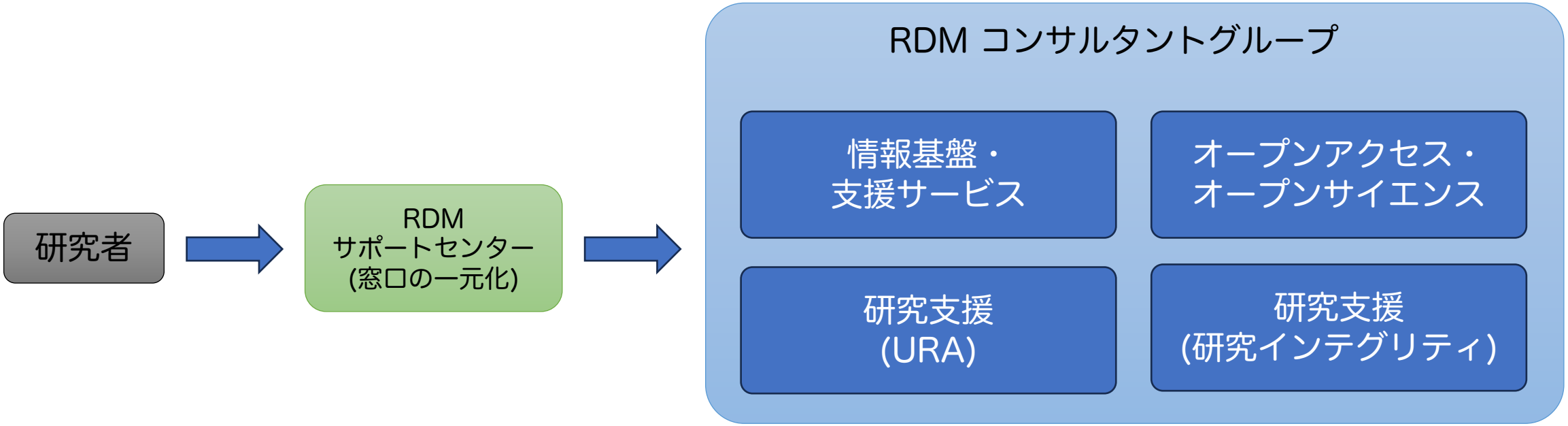
  Mail: rdm-support@mail2.adm.kyoto-u.ac.jp

# RDM コンサルタントグループの構成

- 情報基盤・支援サービス (教員: 7名、職員: 3名)
  - 情報環境機構、情報部：全学の情報基盤、RDM 支援サービス
  - 工学研究科 附属情報センター：工学の情報システム
- オープンアクセス・オープンサイエンス (教員: 2名, 職員: 4名)
  - 附属図書館: 全学の学術情報基盤 (機関リポジトリ)、ポリシー策定
  - 工学研究科: 図書担当
- 研究支援 (職員: 2名)
  - 総合研究推進本部 URA
- 研究公正 (職員: 2名)
  - 総合研究推進本部 研究インテグリティ

# 分散協調型の支援体制モデル

- 研究者からの相談窓口の一元化
- 機能別の4系統を Slack で連携し、回答



# RDM に関する問い合わせ内容の例

- RDM 関連のポリシーや関連サービスに関する事実関係の確認
- DMP の作成方法、研究助成機関への報告書の根拠データに関する記載方法等
- 共同研究における研究データの帰属
- 根拠データの公開における著作権のある資料の扱い
- ストレージサービスに関する問い合わせ

RDM サポートセンターとして、RDM コンサルタントグループ用の Slack チャンネルを利用し、各担当の意見を伺い、回答

# RDM に関する教育

# 研究データ管理・公開セミナー / シンポジウム

- 2025年3月5日：研究データ管理に関する京都大学の取り組みの現状と今後の展開
  - RDM の現状と学内の支援体制
  - 研究途中の研究データの管理と共有方法
  - オープンアクセス、研究データ公開・共有についての国と京都大学の方針
  - 図書館機構によるオープンアクセス支援について
- 2025年6月13日：研究データの収集・共有・公開
  - 研究データの収集・共有・公開
  - KURENAI による研究データの公開について
- 2026年2月27日：オープンサイエンスに向けた研究データ管理支援の現状と課題
  - 基調講演: データ基盤から知識基盤へ
  - 大阪大学のデータ集約基盤ONIONの誕生と成長経緯
  - ONIONを活用したデータ管理システム形成に向けた初期事例：研究管理・人文社会・理工・以上へ広がる分野横断的取り組み
  - 京都大学の研究データ管理支援の体制とそれを支える基盤・サービス
  - 学術情報メディアセンターが提供するエッジコンピューティング基盤とその活用例
  - KURENAI が実現するオープンアクセス

# 研究データ管理に関する教材

- 学認LMS
  - 研究データ管理講座 NII シリーズ
    - ✓ GakuNinRDM　利用支援コース
  - 研究データ管理講座 JPCOAR シリーズ
    - ✓ オープンサイエンス時代における研究データマネジメント基礎
    - ✓ 情報基盤スタッフ向けの研究データマネジメント
    - ✓ 研究データ管理サービスの設計と実践
    - ✓ 研究者のための研究データマネジメント

京大オリジナルのコンテンツは提供できていない

# 関西地区研究データ管理
# 人材育成コンソーシアムとの関わり

# コンソーシアムへの協力について

- 京大での活動をベースに本コンソーシアムに協力し、人材育成に貢献しつつ、関西の集合知を京大の支援現場に還流させたい
- データスチュワード型人材育成プログラムでの講師派遣
  - 第1回　歴史と現在の政策から見るデータ管理
    - ✓ 国内動向等　（オープンサイエンス・オープンアクセスと研究評価、政策、「研究力」）
      沼尻 保奈美氏　（京都大学附属図書館研究開発室）
  - 分野別実践等でもできれば協力
- ポリシー策定の実務知見
  - 規程改正からポリシー、部局実施方針ひな形まで一連の策定経験の他機関の制度設計の参考として共有
- 分散協働型の支援体制モデル
  - 複数部署が機能分担しSlackで連携する運用ノウハウ、調整上の課題

# コンソーシアムに期待すること

- 人材育成
  - 標準化された育成プログラムによる支援人材の増加
- スキルの標準化と参加証明
  - 学内での RDM 支援人材の位置付け・処遇の根拠に
- 機関を超えた相談ネットワーク
  - データの帰属・著作権・ELSI など、個別機関だけで解決できない問題への相談先
- 京大単独では持てない専門性へのアクセス・共同教材の整備